

2023 年度 第 3 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2023 年(令和 5 年)11 月 10 日(金)14:30-17:30
場所	Web 開催
出席者	(順不同、敬称略) 理事:玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、岡村智教、若井建志、神田秀幸、栗山進一、曾根博仁、片野田耕太、村上義孝、金子聰、福島若葉、近藤尚己、尾島俊之、井上茂、小橋元、郡山千早、三浦克之、本庄かおり、有馬久富 第 34 回学術総会会長:三浦克之 第 35 回学術総会会長:安田誠史 監事:横山徹爾、和田恵子 学会事務局:菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美
同席	選挙管理委員会委員長:福田吉治

- 理事会に先立ち、菊池事務局長より、理事・監事 22 名全員の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

- 2023 年度第 2 回日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
- 2023 年度事業報告(案)について、玉腰理事長より説明があり承認された。また、2023 年度収支予想について、菊池事務局長より次の説明があり、承認された。会費収入は概ね予算通りである。事業収入が 600 万円ほど増収しているのは、学術総会の収入が予算より 600 万円多かったためである。一方、事業支出が 181 万円増加しているのは、学術総会の支出が約 200 万円増加しているためである。また、学会事務局の人件費は職員 1 名の休職に伴い、約 330 万円の差異が生じている。
- 2024 年度事業計画(案)について、玉腰理事長より説明があり承認された。2024 年度予算書(案)について、菊池事務局長より次の説明があり、承認された。事業活動収入が 600 万円増加した予算を組んでいる。2024 年度の事業支出を 900 万円ほど多く計上したのは、2024 年度の学術総会の支出予想に 400 万円の増加が見込まれるためである。委員会活動支出について、2023 年度の 70 万円を大幅に上回る 845 万円の支出を計上したのは、2024 年度の事業計画として動画作成や広報関係ホームページの改訂などの費用 570 万円を見込んでいることによる。学会人件費を 2023 年度の支出予想より 330 万円多く計上しているのは、休職者の復職が見込まれること、職員の賃金アップを行なうためである。

4. 日本疫学会奨励賞の選考結果について、奨励賞選考委員会委員長の井上（真）理事より下記のとおり提案があり、承認された。
- 奨励賞選考の結果、受賞者は次の2名である。（五十音順、敬称略）
藤原 和哉（新潟大学）
村上 慶子（文部科学省、東北大学）
 - 奨励賞選考委員会からの講評に女性研究者候補者の積極的な推薦を促す「本学会ではダイバーシティーを推進しており、今後も女性研究者のさらなる積極的なご推薦をお願いいたします。」を加筆し、学術総会における受賞者講演の前に述べるとともに、ニュースレターNo. 63（2024年4月15日発行）に掲載することになった。
5. 名誉会員の推薦および功労賞受賞者の推薦について、岡村担当理事より下記のとおり提案があり、承認された。（敬称略）
- 名誉会員推薦：該当者なし
 - 功労賞受賞者推薦：
尾島 俊之（第33回学術総会会長）
6. JE編集委員会について片野田委員長より、編集委員会メンバーの交代について説明があり、承認された。
- AE退任（3期満了）：相田潤先生、有馬久富先生、後藤あや先生、原めぐみ先生、本庄かおり先生、西山毅先生、奥村泰之先生、鈴木孝太先生、康永秀男先生
 - AE就任：原田成先生、岩上将夫先生、小西祥子先生、松山祐輔先生、森崎菜穂先生、村上慶子先生、齋藤真先生、山口創生先生、Melissa Merritt先生
 - 副編集委員長の浦山ケビン先生がご異動のため継続が難しいことから、後藤温先生に後任をお願いする。

また、失効していたCOPE（Committee on Publication Ethics）への再申請について、片野田委員長より次の説明があり、再申請することが承認された。①COPEのメンバーになることは、雑誌の信頼度向上と出版倫理の情報収集に有用である。②元COPE代表のDr. Liz Wagerさんとのコンサル契約で助言をいただき、COPEに準拠した規定に変更した（2023/7/1）。③失効理由の一つであった申請時の連絡を確実に受け取り返信していく。④年会費が£407（約74,000円）であり、以前は科研費で支払っていたが、科研費がない場合でも継続してJE編集員会経費として計上していきたい。

7. 広報委員会の活動について、金子聡委員長より、ニュースレターNo. 62（編集担当：小山史穂子）の発行などの活動が報告された。

また、疫学リテラシー普及促進 WG 長の福島若葉理事より、ホームページのサイト「疫学用語の基礎知識」の編集作業の進捗状況と編集方針について説明があった。これまでの用語ページの情報には、誤字や図表番号など微細なミスが散見されるため、これらの修正は、金子先生の確認を得て WG が行なっていきたい。一方、大幅な改訂については、理事会での確認を経て加筆修正等を行なっていきたい。その際、執筆者への許諾も得る予定である。その中で、次の 2 点が提案され、承認された。

- ① 今後、用語ページの情報は、「疫学の事典」からの転載となるため、著作権に関連した取り扱いを行なうため、用語のページにも「プライバシーポリシー」（日本疫学会全体のプライバシーポリシーの文書を利用）を明示したい。
- ② 各コンテンツについては、「疫学の事典」の内容の下に、倫理指針等について、対話形式でのコラム化により、より分かりやすい解説・ポイントを掲載したい。そのために、キャラクターの作成・レイアウトなど外注もしていきたい。また、その費用を計上したい。

上記に対しては、①は承認された。②は総論賛成との意見が多かったものの、「実は分かりやすいと思っているのは作成者だけで、一般の人には分かりにくい」という状況に陥らないよう、詳細については要検討となった。具体的には、プロに依頼する、教科書作成に強いコンサルをお願いしたらよい、キャラクターの差し込まれた看護学の教科書（尾島先生、伊藤ゆり先生）を参考にするのが良い、キャッチーな見せ方が重要などの意見が出された。費用については、次年度、疫学リテラシー普及促進 WG の活動費として 50 万円が計上されることになった。

次に、メディア連携 WG 長の近藤尚己理事に代わり金子委員長より、かねてより検討事項であった一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会との連携協定について、協定書（案）が提案され、今後さらに協定書の内容を検討していくことになった。

8. 総務委員会の菊池委員長より、次の規程、規則、細則の改訂案および事務局体制の整備に関する提案があり、承認された。

- 「正職員就業規則」（改訂案）、「有期雇用職員・無期雇用転換職員就業規則」（新規）、「正職員給与規程」（改訂案）、「有期雇用職員・無期雇用転換職員給与規程」（新規）について、ご意見がなければ承認とすることになった。

- 事務局および編集室有期雇用職員（勤続 5 年以上）を無期雇用転換、時給の変更等により、待遇改善を図る。
 - 労働衛生コンサルタントと契約し、職員のメンタルヘルスをサポートする体制を整える。
9. 第 36 回日本疫学会学術総会（2026 年開催）について、金子聰理事（長崎大学）に会長を依頼し、開催地は長崎との提案があり、承認された。
10. その他の協議事項
- (1) 日本医学会連合「専門医等人材育成に関わる要望書」（案）について説明があり、当該案を承認として、日本医学会連合に伝えることになった。
 - (2) 次期委員会（2024-2026）について、玉腰理事長より、①時代のニーズに合わせて学術委員会に新ワーキンググループ（社会実装推進 WG）を設置する ②動画配信も含めホームページの充実を図っていききたい ③理事の先生方の負担を軽くするため、今後理事ではない先生方にも WG 長等に就任していただきご協力を仰ぐ等の説明がなされ、次期委員会構成（案）が提案され、承認された。

＜報告事項＞

1. 玉腰理事長から次の報告があった。
- 門田班研究について、研究費 50 万円の研究計画が採択されたが、門田先生のご逝去により、新研究代表（会長）選出後「委託契約」締結の予定である。
 - 神奈川県立産業技術総合研究所からの後援名義使用に係るお願いがあり、承認済である（8/8）。
 - 看護 e-ラーニング用の JE 論文の一部（グラフ）の転載許可のお願いがあり、承認済である（8/8）。
 - 日本腎臓リハビリテーション学会学会誌 2 巻 2 号掲載予定の井上茂先生の創設に、「疫学の事典」から引用の転載許諾について、承認済である（9/27）。
 - 日本医学会連合 Japan CDC（仮称）創設に関する委員会（第二次）委員（現：祖父江友孝先生）について、玉腰理事長が引き継ぐことになった（9/28）。
 - 日本医学会よりシンポジウムに関する依頼があり、次のテーマと委員候補者を推薦することになった（10/10）。

シンポジウムテーマ名：保健と防災の融合による大規模災害被害の大幅減少

組織委員候補者（敬称略）：栗山進一、尾島俊之
 - AMED 榎原班（産業医科大学）の「デジタルメンタルヘルス予防ガイドライン」リエゾン委員が、小島原典子先生から後藤温先生に交代した（11/1）。

- 「はじめて学ぶやさしい疫学」（第4版）の進捗状況について、福島若葉理事より、最終段階に入った旨、報告があった。

2. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 疫学リソース利用促進委員会の岡村委員長より、既存疫学研究データ資源化・共有・活用WG（神田WG長）から、ODRの周知の目的から、学術総会のプレセミナー企画4に使い方等も含めワークショップを行なう予定であることが報告された。リンケージ基盤推進WGの若井WG長より、次の報告があった。名古屋市立大学医学研究科公衆衛生学の鈴木貞夫教授が、2022年7月の東海公衆衛生学会のシンポジウムにおける発表で、SARS-CoV-2ワクチン接種歴情報、HER-SYSに登録されたCOVID-19罹患歴などの情報、およびCOVID-19患者の予後情報の個人単位でのリンケージによる検討の必要性を強調していたのを拝聴し、これはデータリンケージの問題でもあるので、当WGでできることはないかと思い、課題として取り上げることをWGに提案、承諾を得た。また疫学データ利用促進委員会の岡村智教委員長にも、WGの課題とすることへの賛同をいただいた。（事例の情報収集：COVID-19関連のデータ（ワクチン接種歴情報、罹患情報、死亡情報）をリンクしての検討が可能であった例、逆に何らかの原因で進まなかった例）前回の理事会後、5/31に福田吉治先生にVENUS Study、およびその基礎となるLIFE Study（とくに行政との協力関係）について、オンラインでインタビューを実施した。Zoomの収録を元にまとめを作成する予定である。次には、北海道大学の木村尚史先生に、COVID-19の後遺症調査（HER-SYSを罹患者の名簿として後遺症調査に活用）のお話をお伺いする予定（内諾済）である。
- 2) 学会等連携推進委員会の曽根博仁委員長に代わり片野田理事より、次の報告があった。①「第7～9回日本医学会連合の若手フォーラム」における活動、参加と成果の論文発表について、本学会を代表して本委員会の桑原恵介委員が企画等に参画貢献した。特に第8回においては、本学会の鈴木愛会員（筑波大）が「介護分野における研究について～ヘルスサービスリサーチの視点から～」について発表した。これらの活動内容については、衛生学雑誌にまとめて発表される予定で、その論文執筆には、本学会若手の会代表として参加した永吉真子先生（名古屋大）が他学会若手と協力して貢献した。②日本運動疫学会との協定により、今年度から相互の学会員がお互いの学術集会に会員価格での登録が可能になっている（次回疫学会は17000円→14000円など）。できれば今後、実際にそのメリットを利用して、参加登録した人の人数や年齢などを調査し、今後の学会連携推進に活かせるとよいと考えてい

る。また、このような相互互惠が、本会会員増加に結び付く可能性がある学会との連携を探っていきたい。③他学会や企業、学生など等から「オンライン動画により疫学の手法や研究デザインなどを学べるようにしてほしい」という意見がよく聞かれることから、以前本委員会より、オンライン教育コンテンツ作成の可能性について提案したが、「はじめて学ぶやさしい疫学」(第4版)が間もなく発刊予定であることから、高品質な動画を学会ホームページで安価で長期的に配信する方法を探るべく、事務局が著作権処理務含め教材作りを得意とする学研メディカルサポートから、具体的な見積もり書を作成いただく予定である。なお予算的には昨年頂戴した寄附金 500 万円をそれに充当することがすでに承認されている。学会全体が関わるプロジェクトになると思われるので、広報委員会 疫学リテラシー普及促進 WG、学術委員会 疫学教育推進 WG、編集委員会、学会等連携推進委員会など関係委員会と情報を共有しつつ、可能なお手伝いをさせていただく。動画コンテンツの独立した WG を設置し、それをどこの傘下に置くかについては今後検討していくことになった。

また、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG の片野田 WG 長より、次の報告があった。①加熱式タバコについての調査結果(回答率 100%)では、現在加熱式タバコに対するステイトメントやガイドラインの記述がある学会は、全体の約 60%であり、ステイトメントやガイドラインの記述がある学会の加熱式タバコに対する見解は、全ての学会が「紙巻きタバコ製品と同様、容認しない」であった。②禁煙推進学術ネットワークから助成を受けた JROAD 研究「Long-Term Follow-up Study of Hospitalizations for Acute Coronary Syndrome in Kobe-City and Other Districts Under the Hyogo Smoking Ban Legislation — A Nationwide Database Study —」が日本循環器学会の Circulation Journal に掲載された。③たばこ産業による「ハームリダクション」のプロモーションが活発に行われている。理論的整理として、日本公衆衛生雑誌の総説に投稿し、採択された(片野田耕太、十川佳代、中村正和『「たばこハームリダクション」は可能か? : 国際的動向と日本での論点』(日本公衆衛生雑誌)。さらに、「たばこハームリダクション」が公衆衛生施策として成り立つ条件として 1) リスク低減、2) 禁煙の効果、3) 新たな公衆衛生上の懸念がない、4) 保健当局の規制権限の 4 つを提案。④2024 年第 6 回学術会議を日本疫学会(片野田)、日本臨床腫瘍学会(福田実先生)、日本歯周病学会(稲垣幸司先生)の共催で開催予定。(6/20 メール審議承認済) ⑤第 34 回日本疫学会学術総会のシンポジウム「今、改めてハームリダクションについて考える」(2024 年 2 月 2 日(金)8:30~10:00)

- 3) 多様性(ダイバーシティー)促進委員会の村上委員長より、現在会員情報の分析を行っており、次回理事会にて結果をご報告予定である旨、報告があった。
- 4) JE 編集委員会の片野田委員長より次の報告があった。
- 新インパクトファクター(2022)は、4.7 (5-year:4.9) である。2023 年 9 月現在の投稿数は例年と同ペースで、採択率は例年通りになる予定である。原著論文は、最大 80 編程度を見込んでいる。
 - 現在特集号を進めているところである。
 - 科研費(国際情報発信強化)では、JE 掲載論文の PR 強化のため、次の活動を行なっている。①2022 年 10 月 HP リニューアル、その後編集室メンバーで順調に運用 ②3 つの新コーナーを設置 (Most Accessed、Editors' Picks、Highly Cited)、アクセス数にも貢献 ③2022 年 9 月 Twitter 開始、400 フォロアー (2023 年 10 月 26 日現在) ④オセアニア地域の AE を増やしてプレゼンスを高める (Dr. Melissa Merritt)。
 - Paper of the Year は以下の論文に決定した。
Yuta Yokokawa et al.
“How Long Would You Like to Live? A 25-year Prospective Observation of the Association Between Desired Longevity and Mortality”
<https://doi.org/10.2188/jea.JE20210493> (33-9)
また、Best Reviewer は選考中である。
 - 編集委員会関連イベントは次のとおりである。①日本疫学会プレセミナー2024 JE 編集委員会企画「よい論文を速く書くために 一生成 AI 活用術」(2024/1/31 13:00~15:00@第 34 回日本疫学会学術総会) ②World Congress of Epidemiology 2024 (2024/9/24-27@南アフリカ・ケープタウン)
 - International Advisory Board は契約満了とするため、感謝状を贈る予定である。
- 5) 国際化推進委員会の郡山委員長より、次の報告があった。①第 34 回日本疫学会学術総会トラベルグラントについて、次の 7 名(応募者数 9)を選考した。
- Xinran Wang (China): State-level trends in firearm deaths in the USA 2000-2020: An Age-Period-Cohort and cluster analysis
 - Beatrice Chisoni Kasambwe (Malawi): Determinants of Uptake of 4th dose malaria vaccine among children 22-59months in Machinga, Malawi

- Hsien-Yu Fan (Taiwan) : Serum 25-hydroxyvitamin D and severe COVID-19: A bidirectional Mendelian randomization study
- Nazar Mohd Zabadi Bin Mohd Azahar (Malaysia) : Home Blood Pressure, Brain Structural Changes and Cognitive Function among Japanese Men
- Bianca De Padua (Philippine): Quantifying the efficiency of interventions during the 2022 Ebola (Sudan virus) outbreak
- Madhawa Gunathilake (Sri Lanka): Dietary pattern networks associated with colorectal cancer risk: a case-control study
- Hyun Jeong Cho (Korea): Population attributable fraction of dietary factors on cancer incidence in Korea, 2015

②第 34 回日本疫学会学術総会 委員会企画シンポジウム「国際共同疫学研究の進め方と今後の課題」を開催する。③第 34 回日本疫学会学術総会 サテライトセミナー（国際化推進委員会企画）を開催予定である。④国際疫学会が 2024 年 9 月 24 日～27 日、南アフリカのケープタウンで開催される予定である。

- 6) 疫学専門家委員会の尾島委員長より、次の報告がなされた。
- 審査スケジュールは次のとおりである。①書類審査：10/2～12/13 ②結果発表：12 月中 ③筆記試験：2024 年 2/2（大津）④結果発表と認定証の送付：3 月 ⑤認定日：2024 年 4 月 1 日
 - 認定試験の実施に向けて、多くの先生方に出題委員（30 名）、ブラッシュアップ委員（12 名）としてご協力いただいている。認定試験の準備は以下のとおりである。①出題範囲・領域別出題数の決定（5-7 月）②問題作成（7-9 月）③ブラッシュアップ・最終問題の決定（10-12 月）
 - 社会医学系専門医協会における活動は、①理事会 ②専門医・指導医認定委員会 ③専門医認定試験 ④合否判定委員会 ⑤定時社員総会 を行なっている。
- 7) 学術委員会の三浦委員長（疫学研究推進 WG 長）より、次の報告があった。疫学研究推進グループについては、①放射線疫学推進グループから延長申請があり、承認した。②出生コホートネットワークは終了となっている。
- 続いて、疫学教育推進 WG の本庄 WG 長より、次の報告があった。①サマーセミナーを実施した（2023 年 8 月 26 日 ハイブリッド開催）。参加者は 30 名で、事後のアンケート結果も概ね良好であった。②プレセミナー2024 の公募

を行ない、4つの企画を選定し、実施準備を進めている。（企画1：JE編集委員会企画：よい論文を速く書くために一生成AI活用術 / 企画2：時間を斬る！：生存時間解析における追跡時間の分割（split）の考え方と使い方 / 企画3：生存時間アウトカムの因果解析―斬った時間をリスクに戻す、反事実アプローチによる整合的な解析法のすすめ / 企画4：データベース研究のデザインと実践：明日からできる！データベース研究）

- 8) 選挙規定検討委員会の有馬委員長より、次の報告があった。代議員の地域偏在については、2021年度第3回理事会において、代議員の地域偏在があるとの指摘があり、その背景を選挙規定検討委員会で検討することとなった。2023年度第2回理事会において、選挙管理委員会から①代議員の都道府県格差 ②代議員の男女差 ③代議員立候補時の年齢上限の延長 という論点があがったため、2023年の代議員選挙について、ブロック別・県別の検討および男女比の検討を行なった。その結果、①会員全体における女性の割合（42％）に比べ、立候補者における女性の割合（35％）が若干低い傾向にある、また当選者における女性の割合（35％）は、立候補者における女性の割合（35％）と同じであることが分かった。

- 9) 選挙管理委員会の福田吉治委員長より、2023年度代議員選挙について、次の報告があった。①代議員選挙：立候補受付（3/14-4/30）、告示（5/31）、電子投票（6/14-6/28）、開票（6/28）、結果報告（6/29）②選出理事・監事選挙：選出理事立候補・監事推薦の受付（7/5-7/25）、告示（8/1）、電子投票（8/21-9/4）、開票（9/4）、結果報告（9/5）③理事長（代表理事）選挙：告示（9/8）、立候補届出（9/8-9/21）、投票受付（9/26-10/12）、開票（10/16）、結果報告（11/10）。また、代議員の移動に伴う地域ブロック（中部ブロック）の欠員補充を行なった。さらに、選挙管理委員会より申し合わせ事項の中の「互選により」という文言について不要との意見があったが、検討の結果子の文言をそのまま残すことになった。

3. 第34回日本疫学会学術総会の準備状況について、三浦克之大会長よりプログラムの概要、収支予算案、日程等について説明があった。準備状況は、以下のとおりである。

- 参加登録状況（10月27日現在）：登録数198名（会員139名、運動疫学会会員19名、非会員5名、学生35名）
- 演題登録（登録期間：8月1日～9月11日）：一般演題370演題（40名の査読委員による査読・採点により次のように配分を決定 ①口演40題、ポスタ

ー 327 題（うち優秀演題賞候補セッション 5 題、英語セッション 5 題を予定）

- 協賛募集（10 月 27 日現在）：広告 10 件、ランチョンセミナー 4 コマ、企業展示 10 コマ
- 単位（申請手続き中）
 - ① 社会医学系専門医指導医：学術総会参加、メインシンポジウム（指導医講習会）、プレセミナー3、メインシンポジウム、シンポジウム 6
 - ② 日本人類遺伝学会 GMRC 制度委員会
 - ③ 日本公衆衛生学会認定専門家研修会
 - ④ 疫学専門家認定制度；学術総会参加、プレセミナーの受講

4. 第 35 回日本疫学会学術総会の準備状況について、安田誠史大会長より次の説明があった。①開催日程：2025 年 2 月 12 日(水)～2 月 14 日(金) ②会場：高知市文化プラザかるぽーと（中央公民館、市民ギャラリー、大・小ホール）※情報交換会のみ三翠園 ③開催形態：現地開催の予定（主要行事は後日オンデマンド配信あり） ④運営委託：プロコム・インターナショナル ⑤事務局長：高知大学医学部公衆衛生学教室 宮野伊知郎准教授

5. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より次の報告があった。

1) 学会事務局活動（2023 年 5 月～10 月）

- 会費の再請求：3 年未納者へメール・郵送(6/5)：49 人、ゆうちょ払込票再郵送(7/5)：447 人
- 入会・退会手続き(5 月～10 月)入会 130 人(うち学生 72 人)、退会 85 人、再入会 1 人
- 会計処理、決算準備
- メルマガの発行（29 件）、会員専用ページ（会員登録票の整備、疫学専門家認定電子システムとの連携）
- 学術総会引き継ぎ補助（Web 5/30）、学術総会開催補助
- ホームページ更新（代議員リスト作成・掲載、ニュースレター掲載、疫学専門家特設サイト更新ほか）
- 理事長ミーティング(5/1、6/29、8/3、9/11、10/12)、理事会メール審議(5/15、6/16)
- 委員会活動の支援（Web 会議開催補助、共催対応、ニュースレター編集補助、JE 編集室ミーティング補助、科研費管理、トラベルグラント対応、プレセミナー主催者募集・開催案内、疫学専門家申請に関する対応、COI 申告書提出依頼・集約・報告、奨励賞選考補助、功労賞・名誉会員選考補助等）

- 関連団体への対応（日本医学会、日本医学会連合、日本医師会、禁煙推進学術ネットワーク、日本学術振興会、後援名義使用許可、アンケート回答ほか）

2) 庶務報告

- 会員数(2023年11月1日現在)：名誉会員：33名、代議員：233名、普通会员：2,385名(合計：2,651名)
※普通会员のうち2023年入会学生：107名
- 年会費納入状況（2023年11月1日現在）：2023年度会費の納入義務のある会員：2,511名、2023年度までの会費納入完了者：2,057名、82%）、2年以上（2021年度から）の滞納者：300名